

## 1. 登山部の壮挙

中高年登山者の事故多発という近年の状況の中、無謀と一部で言われながらも、日本丸登山部はやりました！ 白馬大雪渓を登り、「坂の上の雲」エンディングの稜線を下り、蓮華温泉で寛ぐという壮挙（暴挙？）を成し遂げました。

本間部長が呼びかけ、集った勇士は計5人。

7月27日（金）夜10時新宿集合。1時間も早くから到着していた植木隊員が集合場所を見つけられないまま、バス発車時刻が近づく。辛うじてセーフ。バスは3人掛けのはずが何故か2-2の通常のバス。前後も狭い。

7月28日（土）あまり眠れぬまま白馬町到着。運良く1本早いバスで猿倉へ。持参の弁当を食べ、体操をして、7:17出発。しばらく林道を歩き、いよいよ大雪渓入口。アイゼンとスパッツを着け、9:52さあ長い登り。滑ったら大変なので慎重に歩を進める。しかし雪渓を渡る風は涼しく心地よい。雪渓から立ち上る細かな霧で視界は開けないが、時折、空が見え、稜線が見える。疲れすぎないように、20-30分歩くごとに休みを挟む。12:32ようやく大雪渓終了。



アイゼンを外し、大休止。ここで由本隊員は冷凍して持参した缶ビールをゴクリ。岩だけの杓子岳を眺め、大雪渓を見下ろし、ああ気持ちいい。また歩き始める。小雪渓を越え、いよいよあと残り2時間。小屋が見える。ここは白馬お花畑。綺麗なミヤマキンバイほか、咲き競っている。3:59村営小屋で一服し、4:42に白馬山荘到着。ここは2833m、空気が少し薄い。コースタイム6時間15分のところ、9時間25分かかっているが、安全第一、無事これ名馬、これぞ熟年の登り方。荷物を置いて、生ビールで乾杯。畠隊員の持参つまみで、お代わり。7月最終の週末ゆえ、大混雑の



山小屋だったが、本間隊長案で個室（2人部屋）を取っていたため、ゆったりと眠る。

7月29日（日）、4:50起床、5:40朝食。ちょっともたついて、7:04出発。7:24白馬岳山頂2932m。30年前に私が登ったときは、2933mと表記されていたので、この間に1m縮んでしまった。私が山頂で四股を踏んだせいかも。7:34さあ、これから長い下り。三国境、小蓮華山、「坂の上の雲」の稜線、白馬乗鞍岳、船越の頭（日本丸にふさわしい小ピ



ーク）を越え、急な下りになる。ここで独り者の雷鳥、ペアの雷鳥を見つけ、しばらく足を止め眺める。11:45白馬大池到着。ここのカップ麺は大正解。まだ下りが続くので、ビールは我慢ガマン。12:27道中仲良くなった名古屋の若者3人組と別れ、森林の中の下り。これが意外に難物。道が狭く、急で、岩や根や枝が邪魔をして、気を抜けない。慎重に、慎重に下って、ようやく4:40に蓮華温泉到着！やりましたよ。コースタイム4時間25分のところ、所要時間は9時間36分。これでいいのだ。少し熱めの内湯に入って、部屋で飲んで、食堂で飲んで食べて、また沈没。

7月30日（月）、朝食前に露天風呂三昧。由本隊員、その黒いのは何ですか？山路隊員は35年前に入ったはずの風呂を捜して、蓮華五湯巡り。9:40山よさらば、路線バスに乗り、JRを乗り継ぎ、白馬駅へ。バス出発まで時間があつたので、駅前であ直にはなく、いちばん美味しいそば屋を観光案内所で聞く。これが大当たり。そばはうまいし、そばビールもそば焼酎も美味い。帰りのバスは2:14発、3回休んで8:22新宿駅西口着。みなさん大体10時には帰宅できました。

歩きました、飲みました、疲れました、日に焼きました、楽しみました。（B2・山路記）

## 2. 生麦で生ビール

横浜の名所キリンブルワリー、ついに日本丸有志が上陸し旗を掲げた。え、尖閣じゃないって？ 定演が終わってすぐ、こんなメールが。

「合唱団の皆様へ 飲み部有志、杉野（T1）、丸山一義（T2）です。定演が終わりほっとされているこの頃と思います。皆様の死ぬ思い（？）の暗譜の努力のおかげで、お客様に大変喜んで頂きました。まことに嬉しい限りです。いよいよ次の24日（火）からは、来年の演奏会に向けた練習が始まります。そこで、演奏会の成功とこれから1年の健康を願って、『一番搾りフローズン（生）ツアー』を下記の通り計画いたしました。場所は鶴見と近いところです。是非ご参加下さいますようお願いしております。」



8月10日のこのツアーが、いかに楽しかったか、フローズン（生）がいかに美味しかったか、この笑顔から想像

しましょう。

隊長の杉野さんによると、8月21日は、生麦事件から数えて150年目だったとのことです。

